

第66回 住総研シンポジウム

2025年度 住総研重点テーマ

「ネットワーク化する住み方と住まいのかたち」

連続シンポジウム第1回

2025年 **7月6日** (日)

12:30~16:10

大阪市立住まい情報センター 3階ホール (大阪市北区天神橋6丁目4-20)

および オンライン

会場 100名

オンライン 300名

参加費無料

現代社会では、住まいや地域、社会において、人と人とのつながりが薄くなり、誰もが孤独や孤立の状態に陥りやすいと言われている。閉じられた住まいのなかで、孤独や孤立を深める人もいれば、家族とのつながりの喪失から、住まいに困窮したり、住まいを失ったりする人もいる。つながりの希薄化や喪失の問題に、住まいはどう向き合うべきか。本シンポジウムでは、人と人、ケアとのつながりをつくる住まいづくり（しくみとかたち）について考える。

司会 川田 菜穂子 (大分大学 教授)

主題解説

委員長 小伊藤 亜希子 (大阪公立大学 教授)

基調講演

石田 光規 (早稲田大学 教授)

つながりを失う人の実像、孤立を生む社会構造
～場をお膳立てする社会～

事例報告

葛西 リサ (追手門学院大学 教授)

つながりの喪失と住まい

三宮 佳子 (住むケアおおいた)

空き家を活用した居住支援で住宅困窮者を社会につなぐ

羽田 富美江 (さくらホーム)

ケアをまちに開いて高齢者と地域をつなぐ

菊池 まりか (Masterpiece)

親に頼りづらい若者を住まいと居場所につなぐ

クロストーク

上記登壇者

コメンテーター

山田 あすか (東京電機大学 教授)

つながりの喪失に向きあう
住まいづくりへの挑戦



住総研

主催：一般財団法人 住総研

住総研「つながりをつくる新しい住まいのかたち」研究委員会

人口減少時代に入り、家族の形も縮小するとともに多様化しています。単身や夫婦のみ世帯の数は半数を超え、子育て核家族である「標準家族」はすでに標準ではなくなりました。

そこで課題になるのが、どこにどう住むのかの選択です。コロナ禍を契機とし居住地選択の幅が広がりました。また関係人口とよばれる地域に強いつながりをもつ人々の存在も注目されます。

こうしたネットワーク化する住み方に対応し、家族やコミュニティのダイバーシティと多様なライフスタイルを許容し、だれもが豊かに暮らせる住まいのかたちとしくみづくりに寄与する情報を発信します。

- 委員長 小伊藤 亜希子（大阪公立大学大学院 教授）
- 委員 川田 菜穂子（大分大学 教授）
葛西 リサ（追手門学院大学 教授）
近藤 民代（神戸大学 教授）
土井 脩史（大阪公立大学大学院 講師）
柳沢 究（京都大学大学院 准教授）

申込方法

住総研HPまたは申込受付フォーム（QRコード）よりお申込みください。

住総研HP

http://www.jusoken.or.jp/symposium/jusokensympo_66.html



申込受付フォーム

申し込み締切日：**2025年6月25日（水）正午12:00迄**

予 告

第67回住総研シンポジウム

2025年度住総研重点テーマ「ネットワーク化する住み方と住まいのかたち」連続シンポジウム第2回

「つながりをつくりだす「住むかたち」－開く・動く住まい－（仮）」

日 時：2025年12月7日（日）13:00～16:00

場 所：大阪公立大学 I-siteなんば およびオンライン

* 詳細は後日HPにて公開

一般財団法人 住総研

〒103-0027 東京都中央区日本橋3丁目12番2号

朝日ビルディング2階

<http://www.jusoken.or.jp/>

問い合わせ先：03-3275-3078

Mail: sympo@jusoken.or.jp

当日の連絡先：090-9301-0317

